

## 次の二つの「話し合い」を比べて、違いを考えましょう。

—「カレーライス」(六上)を例として—

### ○よい「話し合い」に向かってる学習

ひろしが「夕食を作る」と言ったのは、どのような気持ちの変化からかについて、みんなで話し合ってみましょう。



ひろしは、あやまりたいという気持ちになっていたと思います。だから思わず答えてしまったのだと思います。



わたしも、ひろしはあやまろうという気持ちが大きくなってきていたから「何か作るよ」という言葉が出たんだと思います。ひろしはあやまる練習をしたと書いてあります。



ちょっといいですか。ひろしのあやまりたい、あやまろうという気持ちは本当に大きくなっていったのですか？



11ページにも仲直りしちゃおうかなって思っていたと書いてあるし、12ページにも今までならあっさりとかやめたのに何でだろうとあって、さらに14ページに「行ってらっしゃい」と言わなかったって後悔しています。



たしかに、はずみで「作れるもん」って言ってるけど、あやまる気持ちが大きくなっていったと思いました。ぼくも、前に似たようなことがありました。



ひろしが「夕食を作る」と言ったことについて、考えて話し合みましょう。



ぼくは、お父さんがかぜをひいてかわいそうでつい言ったと思います。Cさんはどうですか。



ぼくも、ひろしはつい言ったと思います。「思わず」って書いてあるからです。



わたしは、ひろしが自分も夕食くらい作れるぞって自慢した気持ちがあったと思います。Dさんは？



わたしは、ひろしが思わず作れると言って、びっくりしていることがわかりました。



今日は、みんなが活発に意見が言えたり、相互指名もできて良かったです。ひろしの気持ちがよくわかりましたね



### ×よい「話し合い」だと思われがちな学習

## それって「話し合い」？

わたしのクラスの子どもたちは、一人一人結構よく発言するのだけれど、ポコポコと打ち上げ花火みたいな発言で、お互いに絡み合わないの。どうしたら「話し合い」ってうまくいくのかしら？



ほとんどのクラスは、意見そのものを言う子が少ないし、友達が見えなくなると「同じです。」とか「それでいいと思います。」で終わってしまうことが、とても気になっていました。



指導案には必ず書いておく「登場人物の気持ちの変化について話し合う」とか「本時の学習課題について話し合う」と書かれているのに、実際の授業では「あら？話し合いはいつ、どこでしたのかしら？」と思うような授業展開にしばしば出会います。

A



## 「話し合い活動」はこれでいいの？

元新宿区立西戸山小学校教諭  
やすだ まさうこ  
安田 恭子

「話し合い活動」は、話す・聞く活動をするということが前提である。ドッジボールでは、受ける・投げる・逃げる活動がそれである。ボールを支配している子は、話し合いでいえば、話題について熱心に発言をしている子。ボールから逃げる子は、聞く活動をしている子と見ていくとわかりやすい。

「話し合い活動」で参加しているかどうかの見極め方だが、意見を言ったり反論している子は、内容はともかく参加していると見ていく。ドッジボールでも、ボールをキャッチするのが上手な子とそうでない子がいるのと同じである。聞いている子については参加していると見てい

## 「話し合い活動」参加の見方

子どもが好きな遊びにドッジボールがある。ボールに群れ、当ったり逃げたりしている様子は、国語科の「話し合い活動」に似ている。「話し合い活動」と比べて考えてみたい。

## よい「話し合い」活動に向けて気をつけたいこと

1 何について、どう話し合うかを明確に。

前ページの右側と左側では、話し合いの課題が違ってきます。右側の課題では、何についてはわかりますが、どう話し合うかがわかりません。左側では、「どのような気持ちの変化からか」と、どのように話し合うかが示されています。話し合い活動では、できるだけ具体的な課題を心がけましょう。

2 意見の数にまどわされずに。

わたしたちは、多くの児童が、次々と発言したり、「〇〇さんどうですか」という言葉を聞いたりすると、話し合いがうまく進んでいると錯覚しがちです。本当に友達の意見に耳を傾けているか、見極めましょう。

3 教師の出番を考えて。

話し合い活動では、教師があまり口をはさんではいけないと思うあまり、必要な助言もしないことがあります。意見の根拠が足りないときは、それを指摘したり、方向がそれていくときは、軌道修正したり出番を考えましょう。

4 結論を確かめ、価値づけを忘れない。

とにかく話し合い活動では、「よい話し合いができました。」という評価で済ませがちです。話し合ってどんな結論になったのか、結論には至らなかったがどこまで話し合えたのかなど、しっかりとした価値づけが、次時をよりよい学習にするのです。

## 「話し合い活動」とドッジボール

よし なが こう し  
京都女子大学教授 吉永幸司

## 「話し合い活動」の活性化を図る

く。ドッジボールでコートの中でボールの行方を追って逃げている子と同じである。話し合いに参加していない子は、コートの外でボールの行方に関心なく、見ている子と同じである。こう見ていくと、話し合いの参加と不参加が見極めやすい。

ドッジボールが楽しいのは、ボールに向かって意欲的に関わる子が多いときである。また、ルールを理解し勝負を意識するときである。このことを話し合いで考えると、話し合いのルールや仕方を教えておくことは前提である。また、ボールを話題と置き換えてみる。そうすると、話題が話し合いという魅力があるかという面の検討が必要になってくる。話し合ったら、考えが広がった、深まったという実感ももてるかという視点で成果を確かめるのである。

また、ドッジボールでは、ボール

## 「話し合い活動」の落とし穴

を支配しているときだけでなく、集中してボールの行方を追う姿の実現が大事である。話し合いでは、意見を述べる、意見について考えるという姿勢をもたせることが活性化につながる。

ドッジボールで、教師が参加し、主役になって活動するときがある。力の強い子は喜ぶ。多くの子は最初は興味を持つが、そのうちに、外野で手遊びしたりする子が出てくる。教師はゲームに集中し、汗びっしょりになって動く。そのときは、子どもが見えなくなっていることに気がつかないことがある。話し合いでも、教師の一人芝居の授業をよく見かける。

気がついたら、ドッジボールで、地面にお絵書きをしている子がいる。話し合いでもそのような落とし穴は多いので気をつけたい。

「話し合う」ということは、なかなか難しいものです。ただ単に報告したり、感想を伝えたり、説明したりとは違って、同じ場を共有する者が、同じ事柄について様々な考え方を関わり合わせながら意見を交換することを目的とするからです。

今の活動は、報告なのか、感想の紹介なのか、説明しているのか、しっかり見極めることこそ、よい話し合い活動への第一歩です。